モモジョイントＶ字トレリス栽培の側枝育成に満開後 30～45 日の新梢切戻し処理が有効である

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1　部門名

果樹－モモ－栽培

2　担当者

安達義輝・桑名篤・三田村諭・南春菜・渡邊善仁・増子俊明

3　要旨

モモのジョイント V 字トレリス栽培（JV 栽培）では、幼木期に主幹部付近から発生する側枝が強勢となりやすい。側枝生長の均一化を図る側枝管理法として、満開後 30～45 日に側枝基部や背面から発生する強勢な新梢を 5 ㎝程度に切戻す処理が有効である。

(1) モモ「あかつき」JV 栽培における幼木期の側枝生長は、主幹部付近が強勢となりやすく、主枝先端部にかけて弱勢化する傾向であり、また、側枝基部径と側枝長には有意な正相関があった（図1，２）。収量性に優れる樹形を確立するためには、強大な側枝の勢力を調節し、側枝生長を均一化することが不可欠と考えられた。

(2) 側枝生長の均一化を図るため、定植2年目に側枝から発生した強勢な新梢を５㎝程度に切戻す処理適期を検討した。満開後 30～45 日処理は満開後 60 日処理に比べ側枝基部径や側枝長の増大が抑制される傾向であった（表１）。収穫果実の品質に差は認められなかった。

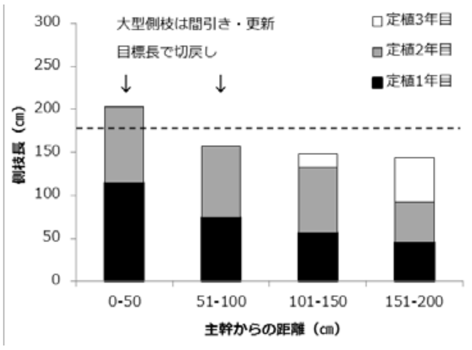

図１　モモ「あかつき」ＪＶ樹形の側枝長

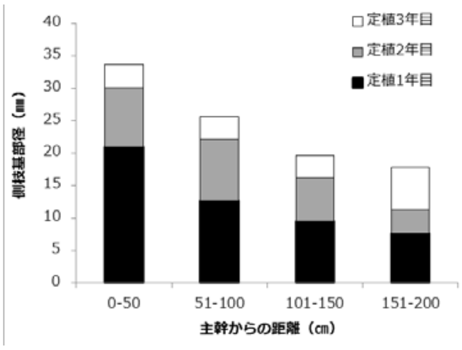

図２　モモ「あかつき」ＪＶ樹形の側枝基部径

表１　モモ「あかつき」ＪＶ樹形における側枝新梢の切り戻し処理効果

処理区	側枝数	2017年/2016年 比		側枝長	側枝延長枝長	副梢発生率	副梢長	果実重	糖度
	本	側枝基部径	側枝長	cm	cm	%	cm	g	°Brix
満開後30日	28	1.68 ^{b}	1.79 ^{b}	189.6	84.3	73.9	20.2	317	12.5
満開後45日	63	1.73 ^{b}	2.18 ^{b}	173.0	91.1	62.3	20.4	306	12.6
満開後60日	41	2.26 ^{a}	2.68 ^{a}	165.3	101.6	76.9	18.0	313	12.7
F値^{z}		9.72 **	10.83 **	1.99 ns	2.19 ns			1.18 ns	0.09 ns

^{z}：**はf検定において危険率１％水準で有意差あり。nsはなし。
Tukey-Kramer法により、異符号間に有意差あり（p<0.05）。

4　成果を得た課題名

(1) 研究期間　平成 28 年度～30 年度

(2) 研究課題名　果樹のジョイント栽培等新技術の導入による革新的栽培技術体系の確立

(3) 参考となる成果の区分　（発展見込）

5　主な参考文献・資料

(1) モモジョイントＶ字トレリス栽培の果実生産性（安達ら，園学雑 17 別 2，2018）

（活用した事業名：　農林水産省：革新的技術開発・緊急展開事業（うち先導プロジェクト・人工知能未来農業創造プロジェクト））